

令和6年度 岡山県立笠岡商業高等学校 学校評価書

(A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を下回った)

学校経営目標	担当	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価 (中間)		自己評価 (最終)	
				達成状況	評価	達成状況	評価
1 生徒一人一人が「学びが楽しい」を実感する学習活動 ○自ら学ぶ姿勢を育成し、学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組ませる。 ○ゆかりタイム、部活動、生徒会活動、社会貢献等、生徒が自信を持って取り組む。○図書館利用やタブレットの活用を推進し、読書の習慣や探究する楽しさを身につけさせる。 2 新時代を生き抜く社会人基礎力の育成 ○5つの力を意識した自主的・主体的な活動を推進する。○失敗を恐れずに、高い目標(進路・検定等)を持ち、最後まで挑戦する姿勢を育成する。○あいさつや言葉遣い、時間管理や健康管理、5SIについて高い意識を持たせる。	教務	・学習時間調査を年2回実施し、校内で情報を共有する。生徒面接等を通して学習習慣の定着を促す。 ・基礎学力の向上のため、教科と連携して週末課題や長期休業中の課題を課し、継続的に学習に取り組ませる。	・学習時間調査を年2回(4月・11月)実施する。 ・第2回(11月)の調査における「授業以外の学習時間が30分未満の生徒」20%以下 (前年度46%)	・4月に実施した学習実態調査の結果、「授業以外の学習時間が30分未満の生徒」は40.1%であった。引き続き、教科と連携して、週末課題や考査前・検定前の学習の呼びかけなど、授業以外でも自分で学習する習慣を身に付けさせる取組を進める。	B	・学習実態調査2回実施した。第2回の調査は2学期の期末考査前の1週間で行ったため、2年生と1・3年生の実施時期がずれた。 ・第2回の結果は「授業以外の学習時間が30分未満の生徒」が27.4%であった。目標には及ばなかったが、前年度より1回に比べると目標値に近づいている。ただし、考査の前であるということ、生徒の回答数が少ない学年があることなど単純に比較できない部分もある。引き続き、教科や授業改善委員会と連携して、授業以外でも自分で学習する習慣を身に付けさせる取組を進める。	B
	生活指導	・生徒会、委員会活動の活性化 ・校則の周知と自己管理能力の育成	学校自己評価アンケート(生徒用) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。98%以上 (前年度97%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付けてきている。98%以上 (前年度97%)	・各種委員会の年間計画に則り、生徒は自分の持ち場でできること、やりたいことを精一杯やるとしている。 ・普段の授業、集会などでは笠商手帳と個人端末を使い分けられるよう努力しており、時間を意識した行動が概ねできている。	B	学校自己評価アンケート(生徒用)から ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。98.8%(目標98%以上) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付けてきている。97.4%(目標97%以上)など目標を達成できた。	A
	進路指導	・将来の地元地域への貢献を見据えた進路指導を行い、自己の進路目標を明確にさせる。 ・学ぶことの重要性を理解し、自学自習の習慣化や面接練習への自主的、主体的かつ計画的な取組を促す。 ・笠商手帳(スケジュール帳)を活用させ、先を見通した自己管理能力を身に付けさせる。自分の履歴を残すことで、PDCAを実践する。 ・学校行事や地域のイベントへ参加することで経験値を高める。	・3点学習の自主的な提出率80% ・笠商手帳(スケジュール帳)の利用率90%以上 ・面接練習を一人1回以上実施	・例年以上に3点学習への取り組みの割合は高く、ほぼ全員が毎日提出して担当コーチからの指導を受けている。 ・タブレットとの使い分けによる手帳の使用機会も増えているが、教師側からの配信が多くなるほどタブレットに偏った使用状況が感じられる。 ・最高のパフォーマンスができるように最高の準備をするように促している。	B	・3点学習の取り組み状況は良好であった。将来の学習に備えた地盤づくりであることを意識している生徒もいる反面、受験に要か不要かのみ拘る生徒も多かった。 ・笠商手帳を活用する場面を意図的に増やし、アナログ的な手帳の存在を意識づけけた。手帳の手軽さ・利便性を活かした場面に適した使い分けを推進したい。 ・進学、就職に選ばれるためには結果を出せる状況にあり、自分の力でできる範囲で取組ようとしている。「もう少し…」という意識を持って一歩前に踏み出す姿勢を身に付けさせた。 ・自宅から通勤、通学を強く望む生徒が増え進路選択の幅が広がりにくい。 ・10回を超える面接練習を行った生徒25%	B
	総務	○広報活動の効率化と充実化を図り、笠商の魅力(生徒)をしっかりと発信する。 ①新鮮な情報をタイムリーに発信する。 ・ホームページ、Facebook、Instagramの迅速な更新。 ②Classroomで校内外のボランティアの案内を行い、笠レンジャーを始めとする生徒を積極的に参加させ、活躍の場を提供し、「笠商5つの力」を身につけさせる。そのため、笠商5つの力の意識向上のため、次の言葉を生徒・教職員ともに浸透させる。 ※「かさしよ 5つの力」 か しこつながり(つながる力) さ らに考え(考える力) し っかりと創造し(創造する力) よ く地域を愛し(地域を愛する力) う れしく人のために動く(人のために動ける力)	①HPの更新(月5回以上) ②学校自己評価(保護者用)「本校のホームページを見ることがある。」70%以上(昨年度61.6%) ③学校自己評価(保護者用)「本校のSNS(Facebook・Instagram等)を見ることがある。」70%以上(昨年度60.9%) ④マスコミ回数増(昨年度:52回) ⑤笠岡市内県立3校のボランティア活動への参加 ・学校自己評価(生徒用)「本校には、他の学校に誇れる特色がある。」95%以上(昨年度94.0%) ⑥笠商5つの力についてのアンケートでの割合 ・意識して取組んだ生徒 70%以上 (昨年度30.7%) ・身に付いた割合 つながる力 85%以上(昨年度80.2%) 考える力 95%以上(昨年度91.7%) 創造する力 75%以上(昨年度74.0%) 地域を愛する力 80%以上(昨年度73.8%) 人のために動ける力 90%以上(昨年度89.1%)	①HP更新は、今年度8月末現在で、62件(4月14件、5月15件、6月9件、7月17件、8月7件)と平均12回で、現在のところ、目標値の月5回以上を大幅に超えている。 ②学校自己評価は、12月に実施であるが、8月のオープンスクールでは、本校のHPを見ている割合(中学生とその保護者)約70%であった。 ③学校自己評価は、12月に実施であるが、8月のオープンスクールでは、本校のSNSを見ている割合(中学生とその保護者)約25%と低かった。 ④マスコミ回数(8月末現在)22件 ⑤今井スマホスクール(毎月1回)参加、リフレッシュ瀬戸内(笠岡市海岸クリーン作戦)に参加している。 ⑥については、アンケートは現在取っていないが、意識して取り組ませている。	A	①HP更新は、今年度1月15日現在、HP発信回数は120件、SNS発信回数150件であった。HPは、月平均15回で目標値の月5回以上を大幅に超えることができた。 ②学校自己評価(保護者用)「本校のホームページを見ることがある」は、62.9%であった。また、③学校自己評価(保護者用)「本校のSNS(Facebook・Instagram等)を見ることがある」は、64.0%であった。②・③ともに目標の70%には届かなかった。 ④マスコミ回数(1月15日現在)60件 ⑤今井スマホスクール(毎月1回)等に参加することができた。 ⑥笠商5つの力についてのアンケートでの割合(1年生アンケート) ・意識して取組んだ生徒30.9% (目標 70%以上) ・身に付いた割合 つながる力 88.6% (目標85%以上) 考える力 97.6% (目標95%以上) 創造する力 82.1% (目標75%以上) 地域を愛する力 83.7% (目標80%以上) 人のために動ける力 93.5% (目標90%以上) 身に付いた割合がすべて目標値を超えることができた。	A
	1年団	・学年目標 ホップ・ステップ・ジャンプ ・笠商生としての基本(5つの力)を身に付ける ・自分らしさを大切にするとともに、他者理解に努め、学校が生徒にとって居心地の良い場所になるようにする。 ・気持ちの良い挨拶が自然にできるような雰囲気を作る。 ・授業と自主学習を通して学力を向上・定着させる。 ・タブレットで情報を得て笠商手帳でメモをし、情報を自己管理して見直しを持って取り組む力を養う。 ・お互いに声を掛け合い、助け合い、周りを見て自分にできることを考えて行動する力を養う。	学校自己評価アンケート(生徒用)の結果 ・学校に行くのが楽しい。(100%) ・自分の学力は向上してきている。(80.2%以上) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付けてきている。(94.0%) ・高校入後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった。(100%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた。(95%以上)	・学校に行くのが楽しい。(88.9%) ・自分の学力は向上してきている。(80.2%以上) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付けてきている。(94.0%) ・高校入後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった。(96.6%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた。(94.0%以上) ・学校へ行くのが楽しいの割合が思ったよりも低く、入学前に思っていた学校生活と実際が違うことへの不満や不安等があるのではないかとと思われる。充実した学校生活が送れるよう学年で連絡を取り合い、取り組んでいきたい。	B	・学校に行くのが楽しい。(90.6%) ・自分の学力は向上してきている。(82.9%) ・自分は、挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付けてきている。(97.4%) ・高校入後、他人を思いやる心を持って行動する意識が高まった。(97.4%) ・ICTを活用することで、学習に主体的に取り組めた。(94.9%)	B
2年団	・学年目標 礼・笑顔・挨拶・挑戦 ・最初の礼と最後の礼を大切に相手へ敬意を示す。 ・笑顔をやさしく信頼を得る。 ・さわやかな挨拶をし、多くの人とコミュニケーションをスタートさせる。 ・後ろを向かず、前を向いて何事にも挑戦する態度を養成する。 ・家庭学習習慣の定着と基礎学力の向上に取り組ませる。 ・部活動100%加入を目指す。生徒会活動、社会貢献活動、地域学(地域の公共施設見学・校外活動)を通して、自主性を育てよう指導する。 ・タブレット・笠商手帳の活用、読書を推進したり、図書館利用を促進する。	・学校に行くのが楽しい。(90%以上) ・自主的・主体的に学習に取り組むことができた。(90%以上) ・学校行事に自主的に参加し、達成感を得ることができた。(95%以上) ・部活動で自主的に活発に活動できた。(90%以上) ・ICT活用で学習に主体的に取り組めた。(90%以上)	9月上旬のアンケート結果は、 ・学校に行くのが楽しい。(96.6%) ・自主的・主体的に学習に取り組むことができた。(95.0%) ・学校行事に自主的に参加し、達成感を得ることができた。(96.6%) ・部活動で自主的に活発に活動できた。(95.5%) ・部活動で自主的に活発に活動できた。(95.5%)である。 ・ICT活用で学習に主体的に取り組むことができた。(95.8%)である。 ・部活動加入率が低下していることで、余裕な時間が増えて、生活面の乱れに繋がらないように防止に努めてきたが、一部の生徒で生徒指導にかかわるような態度がみられた。事情はともかく、多くの転学・退学者を出してしまったことは学年団としても大きな損失であった。再度部活動への加入促進を手掛けていきたい。また、部活動や行事でのリーダーになるように推進していきたい。学習面では、多くの上級検定への挑戦を図り、進路に向け考えさせていきたい。	A	・学校に行くのが楽しい。(99%) ・自主的・主体的に学習に取り組むことができた。(95.5%) ・学校行事に自主的に参加し、達成感を得ることができた。(96.6%) ・部活動で自主的に活発に活動できた。(97%) ・ICT活用で学習に主体的に取り組めた。(99%)である。 部活動加入率が低下していることで、余裕な時間が増えて、生活面の乱れに繋がらないように防止に努めてきたが、一部の生徒で生徒指導にかかわるような態度がみられた。事情はともかく、多くの転学・退学者を出してしまったことは学年団としても大きな損失であった。再度部活動への加入促進を手掛けていきたい。また、部活動や行事でのリーダーになるように推進していきたい。学習面では、多くの上級検定への挑戦を図り、進路に向け考えさせていきたい。	A	
3年団	・学年スローガン「スマイル・チャレンジ・チームワーク」 ・「自学自習」「3点学習」に取り組ませ、補習依存型から脱却し、家庭での学習習慣を確立させる。 ・3点学習の実施において、コーチ制を導入し、希望する進路に応じて担当教員が指導を行い、入試に必要な課題の指示などをし、継続的な指導を行う。 ・スケジュール手帳(笠商手帳)を活用し、自己管理能力を向上させる。 ・最高学年のリーダーとして、生徒会行事の企画・運営ができるように支援する。 ・部活動を最後までやり遂げさせ、人間としての成長を促す。目標に向かい、毎日努力する習慣、ルールを守る、あいさつができる、相手を敬う、などを身に付けさせる。	学年生活アンケートを毎学期に実施し、その回答結果について、 ・学校に行くのが楽しい。(100%) ・時間の「4点固定」ができている。(90%以上) ・スケジュール手帳(笠商手帳)を活用している。(80%以上) ・家庭学習の時間が1時間以上である。(75%以上) ・体育祭・文化祭で積極的に活動できている。(95%以上) ・部活動で感動や充実感を持っている。(80%以上) ・進路実現に向けて具体的に取り組んでいる。(60%以上) ・学習活動でタブレットを活用している(100%)	進学希望者(四年生大学と看護専門の希望者)は1学期の間、進路学習(3点学習)に毎日真面目に取り組む、担当コーチ(教員)の指導を受けた。※3点学習とは、①小論文ワークブック(社会問題について知り考える)、②漢字書き取り、③新聞記事(社説など)の要約と意見記述の3点である。 また、2学期始めに学年生活アンケートを実施した。(9/4~5) ・体育祭・文化祭で積極的に活動できている。(94.0%) ・部活動で感動や充実感を得ることができた。(90.0%) ・スケジュール手帳(笠商手帳)を活用している。(87.0%) ・進路実現に向けて具体的に取り組んでいる。(93.0%) ・家庭学習の時間が1時間以上である。(31.0%) ・時間の「4点固定」ができている。起床時間(82.0%) 朝、家を出る時間(93.0%) 家庭学習を始める時間(8.0%) 就業時間(37.0%) ・学習活動でタブレットを活用している。(95.0%)	A	3学期始めに学校自己評価アンケート(生徒用)を実施した。 【全般】 ・本校で学ぶことに、充実感や満足感を持っている。(96.4%) 【学習指導】 ・自分の学力は向上してきている。(91.0%) ・内容がわかりやすく、楽しい授業が多い。(86.5%) ・授業において自主的・主体的に取り組むことができている。(95.5%) 【生活指導】 ・挨拶、マナー、言葉遣いなど、相手を敬う態度やコミュニケーション能力が身に付けてきている。(96.4%) ・学校行事は生徒が自主的に参加し、感動を覚え、達成感を持てるものになっている。(99.1%) ・地域活性化やボランティア等、地域に向向いての活動に参加している。(77.5%) 【次年度に向けて】 学力の向上に加えて、生きる力(問題解決能力、自制心、協調性、思いやり、豊かな人間性など)を教師や同級生から学ぶ経験を増やしていきたい。	A	
商業科	・新時代を生き抜くためにD人材を教職員・生徒ともに意識して、課題解決のために、ICT機器を利用して、創造的に解決する力(資質・能力)を身に付けさせる。 ・笠商学習支援サイトを有効に活用し、自主的な家庭学習を定着させ、商業についての基本的な知識・技術を確実に身に付けさせる。 ・5つの力を意識した(特に意識させる)自主的・主体的な活動の促進。	・学校自己評価アンケートの「本校では、時代に即したビジネス教育を受ける機会がある」を95%以上(生徒割合昨年度93%)、教職員の評価を上げる。 100%(昨年度87%) ・5つの力に身に付いた生徒の割合①つながる力85%以上 ②考える力95%以上 ③創造する力75%以上 ④地域を愛する力80%以上 ⑤人のために動ける力 90%以上	・アンケート等ができているが、本年度から新しい検定システムが始まり、全商各種検定で自らチャレンジしやすくなった。併せて他の日商簿記・ITパスポートの受験を促していく。	B	・アンケートより、本校では、時代に即したビジネス教育を受ける機会がある。生徒94.5%~96.2% 保護者93.6%~97.2% 教職員87.0%~89.3% 生徒・教職員は若干増えたが、保護者は若干減少した。 商業科の取り組みについて具体的に、わかりやすく伝えたい。	B	

3 地域に信頼される学校づくりの推進 ○中学校(生徒・保護者・教員)へのPR活動および連携の強化を図る。 ○地域に本気(人材)やホンモノ(教材)を求め、地域の教育力を積極的に活用する。 4 「創意」と「チャレンジ」の精神にあふれる組織力の高い職場づくり ○3年間を見据え、生徒の納得した「進路」を実現するための「学びあい」や研究を進める。 ○生徒一人一人の成長を促す魅力ある授業を実現するための「学びあい」や研究を進める。 ○職場における組織的市民行動、職場のコミュニケーション活動を活性化させる。	教務	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料や連絡資料のデジタル化の推進、採点システム「百問線乱」の活用、職員連絡黒板のクラウド化などにより業務の効率化を図る。 職員室、印刷室の5Sを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 採点システム「百問線乱」が効果的に活用されている。(2学期末) 職員連絡黒板をクラウド化し(5月中)、改善を行いながら運用できている。(2学期末) 職員室、印刷室内が整理整頓され、教具や事務物品が使いやすい状態に整えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 採点システムの活用は順調で、ほとんどの教科で活用されている。 5月からクラウド版の職員連絡黒板(日報)の運用を開始し、夏休み中に若干の改善を行った。引き続き、活用方法の工夫や改善を続けていく。 職員室、印刷室の教具、物品の整理を徐々に進めているが、改善すべき箇所は多い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 採点システム「百問線乱」は今年度はほとんどの教科で活用されており、成績処理の時間が短縮された。 年度当初の予定通り、職員連絡黒板をクラウド化し、その後改善を行いながら運用できている。職員朝礼のあり方についても見直しを行った。 職員室、印刷室については、改善すべき点はまだ多いが、徐々に整理整頓が進んでいる。 	A
	生活指	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会、委員会活動の活性化 いじめや生徒の悩みを早期発見・早期対応ができる体制づくり 部活動ガイドラインの遵守 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート(生徒用) 地域活性化やボランティア等、地域に向向いの活動に参加している。55%以上(前年度54%) 学校自己評価アンケート(教職員用) あなたは、特別支援教育に対する理解を深めている。95%以上(前年度95.7%) あなたは、所属部活動が活発になるように工夫し、支援している。95%以上(前年度95.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭にむけ、応援、バック絵、衣装などの準備が3年生を中心に始まっている。文化祭に向けても、創意工夫し良いものができればと思う。決められたルールの中で、切磋琢磨し、成長してほしいと思う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート(生徒用)から 地域活性化やボランティア等、地域に向向いの活動に参加している。57.8%。(目標55%以上) 学校自己評価アンケート(教職員用)から あなたは、特別支援教育に対する理解を深めている。92.9%(目標95%以上) あなたは、所属部活動が活発になるように工夫し、支援している。92.9%(目標95%以上)などわずかにポイントを下げた。 	B
	進路指	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業の訪問や卒業生や地域の人による講演会により、就職や進学への進路意識の高揚と進路実現に活かす。 学年団と担任・進路コーチとの連携を図り、生徒との面談を多く実施することにより、生徒理解と希望する進路実現を目指す。 内定後から入社に向けて、また上級学校卒業後の進路を見据えた職業意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年、2年では進路意識を高め、3年では進路の目標を決定し、目標達成に活かす。 国公立と難関私立大への進学者が10名(2桁)を超える。 就職一次希望内定者が100%。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年を対象に、卒業生の話を聞く会(講師5名)を実施し、進路に対する意識の高揚を図った。 夏季休業を利用して2年生就職希望者に企業へのインターンシップ、進学希望者にはオープンスクールへの積極的参加を促した。 3年生進路ガイダンスで就職希望者に対する各事業所(11事業所)からのガイダンスを行った。その他(13大学、18専門学校)によるガイダンスを行った。 今年度は就職希望者33名が応募している。(昨年度23名) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた内容でのガイダンス、企業説明会を行い進路意識の高揚をはかったが、下学年で進路目標を設定している割合は生徒、保護者共に低い。3年生(2学期後半からは2年生も)には求人票交付閲覧サイトにより求人情報の提供により、家庭での対話が可能な環境を設定した。 先輩の進路活動を参考にしている生徒が多く、在校生だけでなく外部の方々の講演などの回数を増やしたい。 4大：山口(2)尾道市立(2)北九州市立(1)長崎県立(1) 就職：希望者33名全員内定、公務員(5) 	B
	総務	<ul style="list-style-type: none"> ①スクールガイドや学校説明会での広報活動の実施、全国募集の周知 ②中学校2・3年生を対象としたオープンスクール(年3回)の実施 ③全国募集周知に向けた中学校訪問(年2回)の実施 ④全国募集対象学校説明会の実施(6月29日) ⑤ICT推進委員と協働したICT機器の積極的な活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1月志願状況、募集定員(120名)以上 ②学校自己評価アンケート(保護者用)子どもは、タブレットを有効に活用していると思う。90%以上(昨年度87.5%) ③教員アンケート(1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート)の「一般的な端末の活用指導力」で県全体の項目を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①1月の志願状況は、まだであるが、8月のオープンスクールに参加した生徒は、295人と昨年度並みの数値であった。 ②自己評価アンケートは12月であるが、タブレット端末やICTの利用については、年々使う頻度が増えていることもあり、有効に活用している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①12月希望調査(報道発表)では、136名と目標値120名を超えることができた。 ②「学校自己評価アンケート(保護者用)子どもは、タブレットを有効に活用していると思う」は91.6%と目標値90%以上を達成することができた。 ③教員アンケート(1人1台端末を活用した学びの変容状況把握のためのアンケート)の「一般的な端末の活用指導力」で県全体の項目を上回る。このことについては、現在確認できていない。 	A
	1年団	<ul style="list-style-type: none"> 白石島研修をきっかけとし、地域やその課題に興味を持たせ2年生の総合的な探究の時間につなげる。 学年団で情報を共有し、気になる生徒や状況があれば速やかに対応する。 日頃からコミュニケーションをしっかりととり、助け合いながら効率よく仕事を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化やボランティア等、地域に向向いの活動に参加している。(50%以上) 学年団で情報を共有することで、気になる生徒や状況があったとき速やかに対応できた。 日頃からコミュニケーションをしっかりとることで、チームワークが良くなり、助け合いながら効率よく仕事を進めることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化やボランティア等、地域に向向いの活動に参加している。(39.4%) 白石島研修では環境問題について考えるとともに、笠岡の島について身近に感じ、地域を考えるきっかけとなった。 教員間でクラスを超えてお互いに助け合い、良い雰囲気の仕事が出来ている。 学年団会議だけでなく、日頃から生徒の情報を共有でき、問題が起きても、複数で対応しその時点でベストな解決ができたと思う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化やボランティア等、地域に向向いの活動に参加している。(48.7%) 学年団は非常にまとまっており、全教員で全生徒をみているという雰囲気が出来ているので、問題が起きたときの対応はタイムリーに出来たと思う。しかし、人とのかかわり方が苦手な生徒も多く、まだまだ問題を抱えているので、これからも学年団で団結して取り組んでいきたい。 	A
	2年団	<ul style="list-style-type: none"> 朝のSHR、放課後のSHRに必ず2名の担任他でいき、厳密に観察を行い、クラスの生徒理解・情報共有に努める。 学年団会議で情報交換をこまめに行い、問題行動の早期発見・未然防止に努める。 良い情報(生徒の各種の頑張りの部活の成果など)は、教員・生徒ともに情報共有を積極的にし、お互いを高め合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2名の担任で観察することで、より生徒理解・情報共有を深め、問題行動の防止、早期発見になる。 学年団会議で情報交換をこまめに行うことで、問題行動の早期発見・未然防止、解決策の提案などにもなる。 良い情報(生徒の各種の頑張りの部活の成果など)は、教員・生徒ともに情報共有を積極的にすることで、より学年のチームワークや一体感を増やすことになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝夕のSHRに行き、よく観察してくれているおかげで問題行動の未然防止に繋がっているように思える。 学年団会議を毎週行い情報交換を密にしており、生徒指導などの対応策などもできている。だが、不登校気味の不適応生徒も抱えており対応に苦慮する場面も多いが現状である。 成果も教員、生徒ともに共有し、チームで高め合える環境はある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて2名の担任で毎朝夕のSHRに行き、よく観察してくれているおかげで問題行動の未然防止に繋がっているように思える。 学年団での情報交換・情報共有を密にしており、生徒指導などの対応策などもできている。だが、不登校気味の不適応生徒も抱えており、対応に苦慮する場面も年間を通じてあった。生徒は、修学旅行を終えて、一回り成長した生徒が増えた。 良い成果は教員、生徒ともに共有し、チームで高め合える環境があるので、進路決定の年に向けて楽しみである。 	A
3年団	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう学年団の教員で声かけをしていく。 学年団会議や毎日の学年朝礼を通して、学年団の教員間で共通理解を持ち、クラス運営や学年運営を行う。 生徒の情報交換をこまめに行い、気になる生徒がいた場合はすぐに担任に連絡し、必要に応じて学年団で対応する。 生徒会行事のリーダーとなる生徒を支援し、クラス・学年を越えたつながりももてるようにホームルーム活動や生徒会活動を運営する。 進路指導において、3点学習の進路コーチを全教員で担当し、生徒の自学自習の習慣が確立するように継続的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう学年団の教員で声かけができていく。 学年団会議や毎日の学年朝礼を通して、学年団の教員間で共通理解を持ち、クラス運営や学年運営を行うことができる。 生徒の情報交換をこまめに行い、気になる生徒がいた場合はすぐに担任に連絡し、必要に応じて学年団で対応することができる。 生徒会行事のリーダーとなる生徒を支援し、クラス・学年を越えたつながりももてるようにホームルーム活動や生徒会活動を運営することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導において、進路学習(3点学習)の進路コーチを全教員で担当し、生徒の自学自習の習慣が確立するように継続的に指導することができた。 生徒の基本的な生活習慣や学習習慣が確立できるよう、学年団の教員で声かけができていく。 学年団会議や毎日の学年朝礼を通して、学年団の教員間で共通理解を持ち、クラス運営や学年運営を行うことができる。 生徒の情報交換をこまめに行い、気になる生徒がいた場合はすぐに担任に連絡し、必要に応じて学年団で対応することができる。 生徒会行事のリーダーとなる生徒を支援し、クラス・学年を越えたつながりももてるようにホームルーム活動や生徒会活動を運営することができていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【進路指導】 進路学習(3点学習)のコーチを全教員で担当し、その後の小論文指導に移行した後も、生徒の自学自習の習慣が確立できるように継続的に指導することができた。 志望理由書の指導から出願のことまで、ホームルーム担任の先生方が丁寧に指導していただいた。 【生活指導】 学年団会議や毎日の学年朝礼を通して、学年団の教員間で共通理解を持ち、クラス運営や学年運営を行うことができた。 生徒の情報交換をこまめに行い、気になる生徒がいた場合はすぐに担任に連絡し、必要に応じて学年団で対応することができた。 	A	
商業科	<ul style="list-style-type: none"> 笠商の魅力は「生徒」である。その魅力を前面に出す取り組みを推進する(学校のPRと生徒の成長がある)。 働き方改革を意識して教員同士がお互いに声を掛け合い助け合いながら、スムーズに仕事に取り組むことができるよう、協力する。 ICT機器を活用することにより様々な情報を共有し、仕事の効率化を図る(DXと働き方改革)。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業や地域の活動に参加する生徒の人数アップ 各種コンテスト等における大会出場、および上位入賞を果たす。 マスコミ掲載回数を増やす。 授業以外の検定取得、合格科目の種類を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 出前授業は、「電車とマナー講座、課題研究の時間と中学校側の要望が異なり、教員だけの出前講座になっているが、生徒を連れて行った方が好評のようである。案内の仕方等今後の検討の余地あり。 商業実務競技大会は、団体での全国大会出場はできなかったが、全国大会での個人入賞を果たした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 第137回岡山県高等学校商業実務競技大会総合の部第2位 第138回岡山県高等学校商業実務競技大会総合の部第3位 山陽新聞掲載「クラフトコーラ商品化」「日掃りツアー」「岡山イノベーションコンテスト2024部門賞」大会での結果、マスコミへの掲載、出前授業での工夫に努めたい。 	B	